



## 理事の丘山さんを偲ぶ

丘山さんとの出会いは、東京から面白い先生がゲストでお越しになるので参加しないかと誘われたある研究会であった。対話を大切にしている講義で、参加者の一人ひとりに「何を思って研究をしているの？」と聞きながら、歯に衣着せぬコメントに学生たちは目を白黒させられていたが、根底に深い愛情が伝わってきてとても居心地のよい時間だった。ぼくはその時から丘山さんのファンになった。その後、当時研究職として勤めていた西本願寺の研究所に、上職としてお越しになった時はとても嬉しかった。丘山さんとは色々な対話を交わした。チャーミングな中にも、するどく本質をつき、生きること/死ぬことを深掘りし続けておられた。

先生を思い出すたびに大きな寂しさがやってきてたまらない気持ちになる。

最近の丘山さんの書き物を、ぜひみなさんと共有したい。

### 【逝く悲しみと遺された悲しみ】

私は若いころ、岸本英夫さんの『死を見つめる心』という本を読み、それ以来、死とは出会ってきた人びとに「さよなら」を言うことだ、という一見単純な彼の言葉にとっても惹かれたのでした。岸本さんは東大の宗教学の教授だったのですが、在職中にガンに罹り、余命数か月と宣告されました。彼は、その時に自分は宗教を研究しているのだから、自分自身を実験台にして、死に向き合ってみようと考えられたそうです。そして、「安心」を得るために、今まで学び、研究してきたキリスト教や仏教など、様々な宗教を手掛かりにして必死に考えられたのです。岸本さんが亡くなられたのはその10年後でした。

10年間の思索の結果が、自分はキリスト教でも仏教でも安心は得られなかった、そして自分にとって死とは出会ってきた人びとに「さよなら」を言うことだ、ということなのです。

(中略)

それにしても、摂取不捨のなかに生かされ、この世の命を終えるとき、必ずお浄土へ往生するという浄土真宗のみ教えを、岸本さんがどのように受けとめてくださるのか、いずれお浄土でお目にかかった時に伺ってみたいと思います。

丘山さん、岸本さんは何と応えてくださいましたか？あなたの「さよなら」はしっかりとぼくたちに伝わってきましたよ。あなたの大好きなお師匠、玉城康四郎先生と心行くまで対話をなさってくださいね。ぼくもその内にそちらへ参ります。

(代表 竹本了悟)

# Sotto × Bond Project 合同研修会をしました

今年の1月9日に代表の竹本と東京のNPO法人Bond Projectの代表の橘ジュンさんとで「死にたいほどの気持ちの時に何が支えになるのか」をテーマに、YouTubeのライブ配信をしました。その後、その場に居合わせた他のSottoメンバーも含めて普段の活動の様子などを話し合っているうちに、お互いの活動やメンバーの様子を知りたい、交流する機会を持ちたいという話になり、合同研修をしようとなりました。

去る3月末に実施しましたが、お互いに10名のメンバーが集まり合わせて20名での合同研修となりました。

Sottoからは、死にたいほどの気持ちを抱える方に対してどのように関わろうとしているのかという想いや、それを実現するためにどのような研修をしているかということで、実際にロールプレイ研修を体験してもらいました。

Bond Projectからは普段の活動紹介や、その活動を通じて見えてくる若い女の子たちを取り巻く問題などを教えていただきました。

Sottoでは具体的な伴走支援は行ないませんが、今まさに死にたいほどの気持ちを抱えている方の、その気持ちを受け取るという事を徹底します。

その方が自死を選ぶか選ばないかということとは別に、ひとりぼっちにしないことでその方に温かさを届けたいという思いです。

一方、Bond Projectでは街に出掛けて行って、積極的に支援を必要としている女の子を探し出し、声を掛けていきます。またLINEなどで相談を受け付け、必要な支援に繋いでいきます。

居場所・行き場所を失って生きづらさや死にたいくらいの気持ちを抱えている女の子の支えになろうとしているのです。

この社会には様々な苦悩があります。それを想うと、こうしていろんな角度でいろんな層に支えが届くのが良いのだなと改めて思いました。

Sottoとは対象や関わり方は違うけれど、目指しているところは一緒だと、社会的には弱い立場



になりやすい、そうした人たちのそばに共に在りたいという同志がいることは頼もしく心強いものだと思います。

活動の性質上、Bond Projectのメンバーは若い女性がほとんどです。それを思うと、ほぼ同世代の女の子たちの支援活動にたずさわる、彼女たちの負荷は大きいものとも思います。

代表の橘さんが、「合同研修ではいかにも研修という内容だけではなくて、せっかく京都に来るのだから何か旅行を楽しみたい要素も欲しい」ということを言われてましたのも納得です。お互いにしっかり学ぶと同時に、メンバー同士交流したり京都の伝統文化に触れてもらったりしてこの研修自体を存分に楽しんでもらいたいという思いですね。メンバーの事を気遣う橘さんの思いに、姉の様に、時には母の様にでしょうか、メンバーから信頼されてる理由がわかる気がしました。

その思いを受けて、伝統文化体験として、坐禅体験や抹茶和菓子を楽しむ茶道体験、日舞鑑賞などを組み入れました。皆さんにも楽しんでもらえたようで良かったです。

限られた時間の中でしたが、お互いに濃密な時間を過ごせました。Sottoのメンバーにとっても大きな刺激になったと感じています。




またこのような機会を設けられればと思います。

(研修委員長 小坂興道)

# 岐阜いのちの電話 メール相談講座

コロナのために間隔が空いてしまいましたが、2年ぶりに講座の依頼をいただき出講してまいりました。当日はzoom開催ということで約15名が受講されました。これまでも1年に1回のペースでうかがっていましたが、今回は4回目となります。岐阜の皆さんはほとんど事務所に集合されている様子で、画面上では講師の私と、天井近くに設置されているであろう定点カメラの映像と、オンライン受講2名という感じでした。

今回は、普段の相談のなかからピックアップされたメールとその返信文についてを振り返るというオーダー内容でしたので、考え方のヒントをお伝えし、相談者が訴えている気持ちは何か、皆で意見交換をしながら、受け取るポイントや関わりどころを確認しました。以下、受講者アンケートより一部抜粋して感想を紹介します。

-  行間からコーラーの感情を想像しそれを相手に返していく。電話での傾聴と基本は同じだと痛感しました。
-  相手の方の感情を自分なりにイメージすることに、心を傾けると言うかエネルギーを使うと良いのだなと学びがありました。
-  相談メールを送って来られた方の気持ち、悩み、思い、つらさ、それらをどう受け止め、返してあげるのか。研修を受けて感じたこと、学んだことなどをこれからの返信に織り込んでいきたいと思います。

Sotto流の理論や実践が、いろいろな団体の方にも理解、納得していただけること、それぞれの活動のなかで活かされていることを実感すると、仲間が増えていくようでとても心強く思います。またこうして継続して研修に取り入れてもらえることもありがたく、やりがいを感じます。研修や講演の開催など、関心がおありの方はお気軽に事務局までお問い合わせください。

(相談委員長 金子宗孝)

## 今月のことば

教育とは、学校で習ったすべての  
ことを忘れてしまった後に、  
自分の中に残るものをいう。

(アルベルト・アインシュタイン)

## 活動報告

- 4月電話相談件数・・・106件（無言27件）
- 電話相談委員会・・・グループ研修 4/21 参加11名
- 4月期メール相談件数・・・受信156件（全て返信。）
- メール相談委員会・・・委員会会議 4/14 参加6名
- 居場所づくり委員会・・・委員会会議 4/18 参加10名  
おでんの会“食事の場” 4/6 申込14名（参加11名）
- グリーフサポート委員会・・・委員会会議 4/18 参加10名  
そっとたいむ 4/5 申込2名（参加1名）
- 映画委員会・・・委員会会議 4/18 参加10名  
ごろごろシネマ 4/20 申込2名（参加2名）
- 研修委員会・・・委員会会議 4/28 参加5名



## 寄付ご協力一覧

ご協力にこころより感謝いたします

4/1-4/30（受付分）	京都市・長慶院 京都市・西岸寺	匿名21名 (syncable 寄付者含む)
浄土真宗本願寺派 株式会社エクザム 葛野洋明	歩きの善ちゃん 高島市・眞光寺(中西 正良) 永江 武雄	
長嶋 蓮慧 京都市・一念寺	solio 109名 ソフトバンクつながる募金 1件	

Sotto コメント  
季節が過ぎていくのは速いですね  
(A・Y)

発行 2022年5月  
認定特定非営利活動法人  
京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92  
TEL 075-365-1600  
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>  
E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)



クレジットカードでこちらから  
寄付していただけます